

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	太陽の子 芝浦一丁目保育園
施設所在地	東京都港区芝浦1-9-7 芝浦おもだかビル2・3F
法人名	HITOWAキッズライフ株式会社

1. 活動のテーマ

<テーマ>

○構成遊び

健康・言葉・人間関係

「想像力を広げ、友達と一緒に指先を駆使しながら作り上げる楽しさを感じる」

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

【3, 4, 5歳児】構成遊びを探求する。昨年度すくわくで「積み木遊び」をテーマにしており、積み木遊びへのあこがれの気持ちをもっている。また、園舎から見える電車、園の周りにある高いビルや公園、自分たちのマンションの絵を書いている。さらに運河沿いの散歩や街探検で「街」に興味を持ち、その一部を積み木で再現する子どもも出てきた。講師と共に積み木ワークショップを体験することで、積み木を使って街を再現する構成遊びを探求していきたい。

【0, 1, 2歳児】乳児の目と手の協応を育てる遊びをおもちゃで探求する。幼児の積み木遊びにあこがれる姿があるが、積み木を準備するが遊びが展開しない。積み木の前段階として、おもちゃで目と手の協応遊びや探究遊びを行い、自由に動く目と手を育てることで、集中して遊べる体の基礎を作り、3月には345歳と共に積み木遊びを楽しめるようにしたい。・昨年度から室内遊びではレゴ・パックスなど指先を使った造形遊びが好きだった。

2. 活動スケジュール

■幼児クラス■

【テーマの設定】

今年度になり個で作る作品を他児に見せたり、同じ作品を作りながら遊びを共有し遊ぶ姿が盛んになる。個の作品作りと並行で「一緒に作ろうよ」と声を掛け合い、今まで一緒に遊びたいが技を知らない、数が少ないこともあり、いつも遊びが発展できずにいた。

【身近なものを平面で再現する】

○ 5月…白木の積み木48個入り(4cm×8cm)を6箱とカラー積み木(3.8cm×3.8cm)3箱、木製人形を提供される。

5歳児クラスの子どもたちが4歳の時の発表会を思い出しながら、平面構成を始める。

自分たちの身近な町のお店や建物などを積み木を使って遊ぶ。5歳児が遊んでいるのをみて、3、4歳児も刺激を受け、積み木遊びを始める

【カプラを使って少し高さのある構成遊びを行う】

○ 10月…カプラを購入

・初めの頃は一般的なタワーを数人で作り高いタワーを作るところから遊びが始まった。

散歩先である芝公園に久しぶりに散歩に行きたいという会話から、いつも遊ぶ芝公園の広場を作り、道中通る芝公園駅、公園から東京タワーがあってみんなで行きたい、芝公園の隣には増上寺がある…と親しみのある場所を会話を広げながらカプラで表現することが増えた。

【本格的な立体構成をスタートする】

○ 11/27…カプラ、動物の人形が追加提供され、子どもも講師からカプラの積み上げについて教えてもらうことで、ビル、マンション、タワー、富士山、など高さのある構成遊びを行うようになった。

・玩具を提供してくれている玩具屋が講師となり、子どもたちとスタッフが一緒になって研修を受ける。椅子、机、テレビ、家、ペンギン、かたむむりなどカプラの技を教える。

・カプラを使って友達同士で競い合い、互いに自分たちの思い思いの作品作りを楽しむ場面が見られる場面が増えた。

・何処か他者、保育者との関りが希薄な面がある子ども達が他者と会話を通して意見を出したり、共通のイメージを持って作り上げていく姿がとても生き生きとしていた。

【より精密な構成遊びを行う】

○ 12月…発表会での発表会場の制作活動

・今年の発表会に向けて何をしようかという子ども会議で相談。去年の発表会の会場をさらに立体的なものにしてみたい、習った技やおもちゃや積み木を使って作ってみよう、ということが決まり、これまで遊んできた積み木やおもちゃをつかって、去年の発表会の写真を見ながら子どもたちがミニ会場を教室内に作成する。

■乳児クラス■

【テーマの設定】

積み木はあるが、手が自由に動かせない、じっくりと遊ぶ集中力が育っていない姿があるため、まずは集中して遊べる基礎を作りたいと考えた

2歳児

【好きな玩具で遊ぶ】

パズルが好きだが、数や種類が不足していた。まずは好きなものに取り組んでほしいと考えパズルを多く準備しいつでも手に取れるようにした。大人から見たら難しそうなおパズルにも挑戦し、集中して遊ぶ時間が長くなっていった。

【自由に遊ぶ】

このおもちゃの遊び方はこれ、大人の固定概念があった。講師の先生に「おもちゃの遊び方は色々でいい」「子どもの発見した遊びを楽しむ柔軟性が大事」という話をさせていただいたことで大人の考えが柔軟になった。子どもは何が楽しいのかを観察するようになったら、おもちゃをミックスさせて遊ぶ等子どもが自由に遊びを展開していった

【共同遊びが始まる】

玩具を取り合うのではなく順番を待つ、教え合う、一緒につくる活動が始まる。

0, 1歳児

【好きな玩具で遊んでみる】

様々な新しい玩具に興味を示し、手に取って遊びが始まるが、短時間で違う遊びに興味に移ったり、他の子の玩具が気になって遊びが中断し、遊びの継続が難しい。

【好きな玩具で一定時間集中して遊ぶ】

様々な玩具をさわってみることで「これで遊びたい」が明確になり、一人ひとりのスペースを作ることで好きな玩具で一定時間集中して遊ぶことがふえていく

【友達の遊びに興味をもって見る】

友達が遊んでいる玩具と同じものをもってきてそばで遊ぶ、貸してもらえるのをそばで待つ等自分の好きな玩具だけでなく、友達の好きな玩具に興味を広げている

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

購入したもの

白木の積み木 4 8 個入り (4 cm × 8 cm) 6 箱

カラー積み木 (3.8cm × 3.8cm) 3 箱

木製人形、カプラ、動物の人形

絵本

パズル、木製パズル、カスタネットのおもちゃ、型はめのパズル、色が見えるおもちゃ、など
ベビークーゲルバーン・大、アイクリップ ケースセット、ロード & レールラバーラージ、ビルディングスティック、注意力と動きの予測をさせるトラッカー、ミニドール

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

幼児クラス

【テーマの設定】

・昨年度4歳児だった5歳児が構成遊びをしていたが、なかなか発展しないので今年度も継続して構成遊びをテーマの設定とした。

【身近なものを平面で再現する】

おもちゃを使って、昨年度の発表会の会場などを制作、平面的な遊びしかできていない。

5歳の遊んでいる姿をみて、3、4歳児も同じように構成遊びを行うようになった。

【カプラを使って少し高さのある構成遊びを行う】

・カプラで遊ぶ量が足りない、遊び方が発展せずにいたところから自分たちの散歩先である公園をカプラで表現し遊ぶところに発展した。プログラムでもらった積木にすぐに興味を示す。保育者が玩具提供元の玩具屋が保育者向けの研修で教えてくれた積み方を子どもたちと遊びの中で伝えると自分たちで試行錯誤しながら様々な積み方を個、数人で試しながら遊ぶ姿が見られた。少しずつ園でもカプラを使って少しずつ立体的な構成遊びを行うようになった。

【本格的な立体構成をスタートする】

・少しずつ作り出す作品が壮大になっていき、玩具屋の講習を経てカプラの技をたくさん知ることができ遊びにつなげて行った。幼児クラス全体で構成遊びが広がっていった。

・平面で街を作ったり、二階建ての家を作り、同じように積み上げていくことでマンションになることに気づき初めは何階まで作れるかを考え、実践していた。

【より精密な構成遊びを行う】

・人形や小さなパーツ、動物人形を使い想像力を膨らませながら作品を作り、個の作品がお同じ空間にあることで共通の設定を持ち、更に遊びが広がっていた。最初に行っていた、身近な生活際限の構成遊びを改めて行うことで、より立体的な遊びになり幅が広がった。

■乳児クラス■

【テーマの設定】

積み木はあるが、手が自由に動かせない、じっくりと遊ぶ集中力が育っていない姿があるため、まずは集中して遊べる基礎を作りたいと考えた

2歳児

【好きな玩具で遊ぶ】

パズルが好きだが、数や種類が不足していた。まずは好きなものに取り組んでほしいと考えパズルを多く準備しいつでも手に取れるようにした。大人から見たら難しそうなのパズルにも挑戦し、集中して遊ぶ時間が長くなっていった。

【自由に遊ぶ】

このおもちゃの遊び方はこれ、大人の固定概念があった。講師の先生に「おもちゃの遊び方は色々でいい」「子どもの発見した遊びを楽しむ柔軟性が大事」という話をしていただいたことで大人の考えが柔軟になった。子どもは何が楽しいのかを観察するようになったら、おもちゃをミックスさせて遊ぶ等子どもが自由に遊びを展開していった

【共同遊びが始まる】

玩具を取り合うのではなく順番を待つ、教え合う、一緒につくる活動が始まる。

0, 1歳児

【好きな玩具で遊んでみる】

様々な新しい玩具に興味を示し、手に取って遊びが始まるが、短時間で違う遊びに興味に移ったり、他の子の玩具が気になって遊びが中断し、遊びの継続が難しい。

【好きな玩具で一定時間集中して遊ぶ】

様々な玩具をさわってみることで「これで遊びたい」が明確になり、一人ひとりのスペースを作ることで好きな玩具で一定時間集中して遊ぶことがふえていく

【友達の遊びに興味をもって見る】

友達が遊んでいる玩具と同じものをもってきてそばで遊ぶ、貸してもらえるのをそばで待つ等自分の好きな玩具だけでなく、友達の好きな玩具に興味を広げている。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>
(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

【幼児クラス】

・4月当初はカプラで遊びたいという気持ちもありながら発展の方法がわからない子どもたちと、遊びの中から遊びの広がりを見つけてほしいと思う保育者の思いから小さなスペースを準備した。

遊んでも狭く、ぶつかって壊れてしまうことも多く、プログラムのカプラや積木が届き、遊びが発展し始めたところで室内環境を見直し、広く使えるコーナーに変える。

棚などではなく、ビニールテープで範囲を示し、取っておくことも可能なルールを新たに加えたことで数日かけ、少しずつ手を加えたり範囲を広げ壮大な作品がたくさんできた。

人形のパーツや動物の人形、色付きの涙型の積み木を複合的に使い思い描く世界を表現していた。

パーツが増えたことで片付けに時間がかかることもあるが種類ごとにカゴを用意しパーツごとに写真を貼るなど場所を決めたことで、元々苦手の片付けを写真を頼りに「きれいに片付ける」ことへの意欲にも繋がった。

・初期の頃は大きな山や家を作りながら遊んでいたが5歳児の何気ない会話の中で、12月に行われる発表会で何をしようかという話題になり会場を作ることになる。会場の様子を思い出し、舞台には人形を配置して「ここは〇〇君、その隣が私。」「前には〇〇ちゃんがいたよね」「先生がピアノ弾いてたよね。今年も弾く?」「ピアノの場所はどこだったっけ?」など会話をしながら昨年度の発表会の様子を忠実に再現していた。途中、パーツが足りなくなる場面があるが縮小したり違う玩具も混ぜ遊んでみてはどうかと子どもたち自身で伝え合い試行錯誤しながら取り組んでいた。

・積木など遊ぶ機会が少なかったため、小さなコーナーを設定していたが、プログラムが始まったことで積木への興味が広がりコーナーを大きくしてほしい、作った作品を取っておきたいなど子ども達と一緒に室内環境を考えるきっかけにもなった。

・玩具屋の講習後はカプラで高層マンションを作ることが流行る。初めは何階建ができるかを楽しむところから途中で崩れてしまい涙したり、安定して積み上げるにはどうしたら良いのかを試案しながら何度も取り組む姿があった。コツを掴んでからは自分や友達、保育者が何階に住んでいるのかを聞き、「この階は〇〇の家」と意味付けし、マンションの下には自分たちが行くレストランや最寄り駅、保育園など自分たちの住む街を3、4、5歳で会話を楽しみながら遊ぶ姿が見られた。

【2歳児】

・どうぶつバランスの動物たちを、複数の子どもたちが手に持って動物になりきって絵本の一場面を再現する。カスタネットを「3回鳴らす」と複数人でたたき「3回！」と喜び合う等玩具で遊ぶだけでなく、違う活動とつなげて子ども同士喜び合う姿が見られるようになり、玩具遊びのバリエーションが日々ふえている。

【1歳児】

・どんぐりの坂道ころがし、最初は友達の遊びのおわりを待たずに坂道の途中のどんぐりをとって「だめ！」「○ちゃんの！」と中断することが多かったが、今は「最後まで坂道をおりたら順番が来る」「最後までおりたら楽しいから待ってあげる」という気持ちが芽生え、「順番」「いいよ」ひとつの坂ころがしのまわりに複数人が集まり、順番にどんぐりをころがすようになった。満足したから順番が待てることを実感している。

【0歳児】

・色水の入った積み木、最初は大人が揺らすのを目で追っていたが、今では子どもが目当てで「黄色」「赤」と言葉にして色の世界を楽しんでいる。玩具が子どもの言葉も感性も育むことを感じている。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

この活動を通し、子ども同士で会話を楽しみながら作り上げる楽しさを感じている姿が印象的だった。希薄だった子ども達が共同で、個の取り組みで互いのイメージを共有し、更に深めたり規模を広げたりと共通の世界観を持ち遊びに向かい合う姿が見られ子ども達自身の関係性も深まっているように感じる事ができた。積み木、カプラで遊ぶことで空間認知能力が養われ、バランスを取りながら積むための集中力やどこに置いたら安定するかなど目や手の動作の獲得にも良い体験だった。また、何を作るうか、どうしたら思い描く想像力、また失敗しても何度でもチャレンジする気持ちも遊びの中で体験できた。

子ども達にぜひ体験させたいと思っていた活動を時間をかけて深める事ができた。

木の玩具の取り組みを希望した理由に木の温もりや柔らかさなど自然物ならではの感じられる気持ちも味わってほしいと考えていた。活動の中で子ども達から「木の匂いがする」「他の玩具よりもあったかいよね」と言う声もあり自然のものの温もりも感じられる良い機会となった。

自分たちよりも背の高い構成遊びができるようになった。

3, 4歳児も今の5歳児に影響を受け、より高い構成遊びにチャレンジするようになった。

構成遊びのスキルに磨きをかけ、より発展的な構成遊びができるように計画中。

【乳児】

活動前は集中して遊べない子どもとして見えていたけれど、玩具環境を整え、関わり方を講師から学ぶことで子どものせいではなく、大人の関りと環境設定が不足していたことに気づいた。大人の見方と環境を変えることで、子どもたちは生き生きと遊び、友達に気づいていく変化を目の当たりにして、保育者も毎日の保育がどんどん楽しくなっていた。子どもたちは今回の経験で、目と手と遊べる身体を育てていった。これを土台にして、来年はさらに遊びを発展させていきたい。